

## 動作発達過程を考慮した声かけを中心とした運動指導実践（走・跳動作）

学校名 瀬戸市立幡山南保育園（愛知県）

全園幼児数 64名（男児 34名 女児 30名）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0561-83-4048

メールアドレス: hataminami-h@city.seto.lg.jp（金谷）

### 1 研究のねらい

子供達の動作発達過程を再確認しつつ、その状況に応じた適切な声かけの言葉を用いていく。運動実践の際に効率的に指導できるばかりでなく、保育士自身が着眼すべき動作を理解することができる。

### 2 研究の概要

運動を専門としない保育士においては、子供達のどのような動きに特に注目し、どのように声をかけることで効率的な運動動作獲得を促進できるかが難しい。そこで、大学等の専門家のアドバイスのもと、着眼点や効率的な声かけを学ぶ実践にいかしていく。

## ○実践プログラムの紹介

### ■ 発達の特성에 応じた遊びの例

声かけを中心とした運動実践プログラムを展開した。声かけと言っても単に声をかけるわけではなく、過去の運動動作評価結果から、子供達の各動作の発達過程（順序）を明確にし、その段階にあわせた声かけを事前に準備した。これによって、子供達の発達段階に応じた適切な指導を促進した。動作の着眼点と声かけとの対応を跳動作を例に以下に示す。

（走動作）

年少レベル：1）両足一緒に跳ぼう、2）イチ・ニーの・サン など声でリズムをとってあげる。

年中レベル：1）元気よく手を振ろう、2）あえて少し遠目の目標を設定（前傾姿勢を促す）。

一年少レベル（両足踏切）－

－ 一年少レベル（腕振りリズム）－



両足での踏切ができていない



腕振りが踏切のタイミングとあっていない。逆や振れていないなど。

－ 一年中レベル（腕振り）－

－ 一年少レベル（両足・前傾）－



腕は振っているが、方向が違ったり勢いが不足したりする。



両足での踏切ができていない。踏切時に前傾姿勢が取れていない。

同様に走動作に関しても、動作着眼点と声かけを事前に準備して運動実践を行った。

## ○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 施設や設備は各園に既存のものとし、子供達が使い慣れていないようなことがないように配慮。
- 2 実践の際には、学生などの補助者を増やし、通常以上に多くの目で指導・管理を行った。

## ○成果の意義と今後の課題

（意義）運動を専門としない保育士のおいても教育・保育現場でより効率的な運動指導が可能になる。また、運動への着眼点を理解することは運動を理解することにもつながる。

（課題）実践内容をより定式化して広く普及させていくこと。

## ○ 研究内容

### 腕振りや視線への声かけ後の走動作

学年別に声かけワードを用意して指導。走動作時の視線や腕振りは重点的に声かけ、最も手前の子はかなりダイナミックな動きに変わった



### ラダー運動への声かけ（跳動作の例として）

学年別に声かけワードを用意して指導。両足踏切や目線、腕によるリズムを中心に声かけ。学年や動作発達に応じて声かけワードを変化させた。



### 走動作発達過程（動作の質的評価結果より）

昨年度のデータを質的に評価することで、学年別の達成度を検討。これをもとに、子供達の動作発達過程を理解し声かけワードを決定。

走動作	成就率 (年少)	成就率 (年中)	成就率 (年長)
同時遊脚期（両足が地面から同時に離れている時期）がある	94.2	100.0	100.0
両腕の十分なスイング動作	84.6	91.7	95.9
着地脚のけり（着地脚で地面を蹴り、膝を伸展させる動作）	59.6	79.2	77.6
蹴り脚のかかとの殿部への引きつけ	48.1	77.1	69.4
膝の前方への振り上げ（大腿が地面と水平になる程度まで）	17.3	37.5	46.9

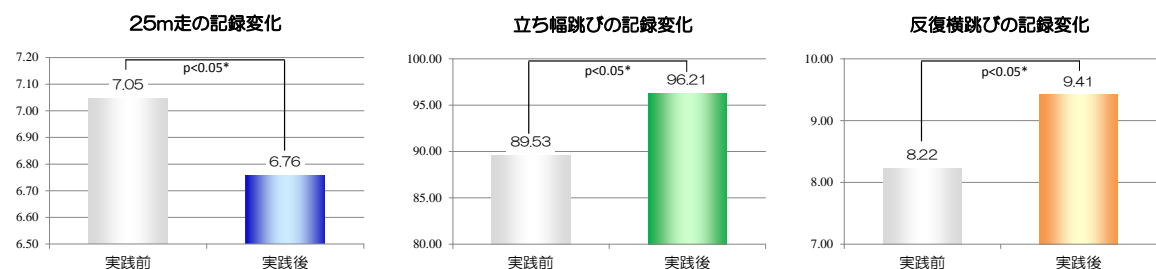
### 跳動作発達過程（動作の質的評価結果より）

走動作同様に、昨年度のデータを質的に評価することで、学年別の達成度を検討。これをもとに、子供達の動作発達過程を理解し声かけワードを決定。

跳動作	成就率 (年少)	成就率 (年中)	成就率 (年長)
両足での前上方への強い踏み切り（踏み切り時）	94.1	95.6	92.5
深い沈み込み（踏み切り時）	92.2	97.8	92.5
体幹の前傾（踏み切り時）	68.6	75.6	73.6
上肢の振り上げ動作（踏み切り時）	62.7	82.2	83.0
上肢の振り下ろし（着地時）	58.8	82.2	81.1
上肢のバックスイング（最大バック時）	29.4	62.2	84.9
上肢の振り上げ（最大バック時）	9.8	53.3	60.4

### 走・跳動作の体力テスト記録の変化

走動作に関しては25m走、跳動作に関しては立ち幅跳びと反復横跳びの記録の変化を示す



走動作、跳動作に関連する体力テスト項目は、いずれも有意に改善した。身体の発育もあるが、期間がわずか3~4ヶ月であったことを考えると実践の効果であると判断できた。

※. 動作映像も撮影済み、現在分析中

### 実践プログラムの定式化（マニュアル化）

2013年度までに得られた知見をもとに、指導のマニュアル化をはかる。これにより対象園以外への広い普及を促進する

2014年度以降は、これまで対象3園で実践してきた内容をより普及していくことを目指す。特に重要と思われる走・跳・投を中心とした動作に焦点をあてた、一定回数の運動実践プログラムを作成しその効果を検証していく。これまでの取り組みとはことなり、実践内容をマニュアル化していくことでより多くの園（幼児）の体力向上や運動動作獲得につなげていけるように努力していく。